

# 有馬コスモスの家の 17年をふりかえる

平成13年5月に開設された「有馬コスモスの家」。

宮前区有馬小学校の余裕教室を活用し、川崎市の独自事業として「ふれあいデイサービス」の活動を行ってきました。

運営は、秋桜舎・コスモスの家が委託されました。しかし、平成27年度の介護保険法の大きな改正に伴い、今年度3月31日をもって、事業廃止が決定となりました。利用者とともに、廃止決定中止を訴え要望しましたが覆らず、断腸の思いです。ご利用者の「何とか継続できないか」という熱い思いと要望、何よりも、有馬小学校校長先生のご理解、ご協力で「有馬コスモスの家」は自主活動として存続することになりました。

## それぞれの想い。。。。

### 素敵な笑顔の誕生会



施設長 堤 郁子

毎月の誕生会には、手作りの贈り物をしています。平成28年は、誕生花と花言葉と私の一筆添えた「はがき絵」としました。利用者の皆様は、殊の外うれしい様子で、写真に写る皆の顔は最高の笑顔です。「この写真を遺影にしたい」と言う程です。平成29年は、スタッフの手による和紙で作った額に別の本による誕生花を添えました。スタッフの心がこもった誕生会も、これでおしまいです。

### 私は忘れない

看護師 池田静子



3・11東日本大震災の日「コスモスの家」では、午後のハンドチャイム後、おやつを終え帰り支度前の時間帯でした。宮前区は震度五弱、今までに経験したことのない揺れに不安と恐怖、緊張した皆様の顔、顔。非常口から上履きのまま校庭に誘導しました。とても寒く強風の中、空は厚い黒い雲で覆われ、プールの水はバザーバザーと川の如くに流れています。事故もなく無事に帰られほったした震災が、私の心に残った出来事です。

### 何気ない会話から

ケア 山口洋美



16年務めた中で色々なことがありました。その中で特に印象深い出来事なのは、ある方との会話でした。ご主人を亡くし独り暮らしのTさんは、認知機能の変化を不安に思っていて「息子たちはたまに顔を出すけど私の変化には気がつかないだろう、毎週会うあなたたちは、気がついてくれると思うから私に何か変わったことがあったら息子に連絡してね。」何気ない会話でしたがこの仕事の大切さを感じ、とても心に残りました。

### 傘布利用が私の趣味に

ケア 安元啓子



介護予防の利用者さんは、多オデ活動的です。編み物、パッチワーク、絵、カラオケ、畑仕事、ボランティア活動等々。ある時、利用者さんが師となり、傘布を利用した手縫のリュックサックとショルダーバッグを教わりました。ごみの集積場所です敵な傘を見つけると、送迎車をちよつと止めてもらい、頂戴したこともありました。そして、

今では、傘布を利用した袋物やいろいろなものを作るのが私の趣味の一つに加わりました。

### 日々共にして

調理員 寺村洋子



「あー、美味しかった！私も作ってみようかしら」。利用者の皆様との唯一のふれあいの場である昼食時間、交わす会話は様々ですが、毎回決まって開口一番「お疲れ様」でした。利用者の皆様の気遣いと人柄を感じつつ、また調理に携わる者の幸せを実感するときもありました。「有馬コスモスの家」の厨房に就いて、足掛け十年。大勢の皆様と出会い支えられて無事終えることができました、ほんとうにお世話になりました。ありがとうございました。

### 「美味しい！」のこぼれ

調理員 阿部綾子



調理場で9年間働かせてもらいました。もともと料理が苦手で作るのが好きではなかったのですが、先輩主婦たちのおかげで沢山の料理を学べたり、利用者さんからの「美味しい！」の言葉を聞くことがとても嬉しかったです。アットホームな雰囲気で作る料理ができたことが長く続けてこれたのかなと思っています。ありがとうございました。

### 「ありがとう」の言葉にほっとしました

栄養士・調理員 児玉恵子



食事は生活要素の中でも特に大切です。そんなお話をしながらの利用者さんとの食事ではいつでも感謝の言葉をいただきました。反省点も多く、毎回感じる味付けの不安も「おいしかったですよ！」と声をかけて頂きまた次へ繋げていきました。公園等外での活動時は弁当にしましたが、慌ただしい中でも届けることができ、

「ありがとう」の言葉にほっとしたことが印象に深く残っています。そして、ここまで無事に業務できたことを感謝致します。



自分らしく、楽しんで

有馬コスモスの家で看護師と  
看護師 元広尚美

して5年間を過ごしてきました。健康に対する関心が高いこと、また書道・手芸・ストレッチなど得手不得手に関わらず向き合い、熱心に取り組まれる姿、体で楽しもうとする姿が印象的でした。

一番心に残っているのが、日帰りバス旅行です。車内は学生時代のような賑わいで、立ち寄ったお土産屋さんでは、家族に友人にと両手いっぱいのお土産を買っていかれた時のパワーは、目を見張るばかりでした。自分の親世代の方々と過ごした数年間は、「自分らしく楽しみながら歳を重ねなさいよ」と優しく背中を押される貴重な日々でした。



「コスモスの家」は学びの場

ケア・調理員 井上 忍

「有馬コスモスの家」は、子供が通っている小学校にあり、たまたま調理募集のチラシを見たことがきっかけです。

調理は苦手でしたが、先輩方にいろいろ教えて頂き、沢山の料理を覚えました。今では我が家の食卓にも、コスモスのメニューが並びます。調理のほか、ヘルパーとして週2〜3日入ることににより、「人」について学ばせてもらいました。

人とのつながり、人間関係、考え方、言葉使い、人との接し方等々。コスモスの家は、私にとって、学びの場だったと思います。



楽しかった調理の仕事

調理員 神谷 茜

私はコスモスの家の調理員をして4年になりました。コスモスの家で働いて色々な料

理を覚え、レパートリーが増えました。利用者さんに「美味しい!」と言っていたいたり、レシピを聞かれて「家で作ったよ!」と言われると本当に嬉しかったです。利用者さんと一緒にご飯を食べていると、いろんな話をしてくれて楽しかったです。



雨の日も風の日も

現コスモスの家理事 水野正代  
有馬コスモスの家廃止にあたって、現在はコスモスの家ケアマネジャーと理事を務めておりますが、平成17年から3年間有馬コスモスの家のケアスタッフとして勤務いたしました。自立支援のデ

イサービスでしたので、利用者の方々のパワーには、大いに刺激を受けました。有馬コスモスの家には、古いコスモス車(アルト)で通いました。正直運転に自信がなく、エンストを気にしながら雨の日も風の日も必死の思いで通勤したことが思い出されます。

## 有馬コスモスの家 お別れ会

平成30年3月23日、宮前区有馬・野川生涯学習施設アリーノにおいて、有馬コスモスの家のお別れ会が開催されました。この日のために利用者講師の先生方、スタッフ一丸となつて猛練習をしました。



各曜日ごとに別れ、それぞれのカリキュラムを披露し、素晴らしいお別れ会となりました。

みなさん、とても光り輝いていました!

